

創刊にあたって

—公営企業管理者から—

宮城県企業局は、昭和49年4月に設置以来、来年で40周年を迎えます。これまで、広域水道、工業用水道、地域整備事業などを実施してまいりましたが、これを機会に、尽きることのない水の恵みに感謝して、今年度から2年をかけて「恵水不盡（けいすいふじん）」プロジェクトに職員一丸となって取り組むことにいたしました。

すでに東日本大震災から2年4か月が過ぎ、被災した水道施設は全て復旧しましたが、今後ともこの大震災の教訓を踏まえ、人口減少への対応と施設の耐震化や長寿命化などを一層進めることが重要です。そこで、このプロジェクトでは、新たに「企業局長期水道ビジョン」と「経営計画」を策定するとともに、40周年にちなむ各種イベントや広報等に取り組んでまいります。

この広報誌「メビウス」は、このプロジェクトなど、震災復興期間中における企業局の取り組みを広く県民の皆様にご覧いただき、引き続きご理解とご支援をいただくために発行する「企業局復興だより」です。「メビウスの輪」に由来し、これからも持続的に県民の皆様へ良質なサービスを提供できるようにとの想いで情報発信してまいりますので、ご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。



公営企業管理者 橋本 潔

南川ダム 恵水不盡碑（故山本壮一郎知事による書）

恵水不盡（水の恵みは尽きない）プロジェクトは、今後の震災からの再生期とその後の発展期、さらにはその先を見据え、震災を教訓に様々な課題に企業局職員一丸となって立ち向かっていくプロジェクトです。

<特集>水源地を求めて

—白石川・横川源流調査—

6月19日に県南の取水地である白石川・横川源流調査が行われました。

本調査は、七ヶ宿ダム湖の水質保全、水質監視施策の一環として毎年二回実施している調査です。県南の取水地である七ヶ宿ダムに流入する主要な河川である白石川と横川の水質検査や周辺環境の調査、両河川源流部の現況の把握を行っています。



鏡清水

まず第一のポイントは白石川の鏡清水（かがみしみず）です。山形県境金山峠にあり付近一帯が白石川の水源地となっています。鏡清水の名前の由来は、昔、この地を通りかかったお姫様が、清水を鏡の代わりにして姿を写したことからと言われています。周辺には新たな土地開発や宅地造成も認められず、自然の豊かさが広がっていました。（裏面に続く）



一枚石沢の堰

第二のポイントは横川の二つの沢、一枚石沢と二つ石沢です。この二つの沢には堰が設けてあり、名前を横川堰といいます。この堰には古くからの歴史があり、江戸末期には上山の庄屋が豊富な沢水に注目し開墾部落の水不足解消にと、尾根越えの分水工事を私財のすべてを投げ親子二代で完成させたと言われています。

どちらの源流域も、ブナ帯をはじめ多くの自然林に囲まれており、豊かな自然環境が保たれていました。



—七ヶ宿ダム湖畔クリーン作戦—

平成25年6月3日に「七ヶ宿ダム湖畔クリーン作戦」が行われました。この行事は仙南市町水道事業連絡協議会主催で、平成14年から毎年、水道週間に合わせて行われていて、今年で11回目となります。

「七ヶ宿ダム湖畔クリーン作戦」には企業局の職員や受水市町からも参加があり、参加人数は93名になりました。周辺の道路や公園に投棄されたゴミは、可燃ゴミ、不燃ゴミ、合わせて35袋、110kgもの量が回収されました。



ゴミ拾い中の職員

七ヶ宿ダム湖畔クリーン作戦で回収されるゴミの量は、年々減っているようですが、それでもゴミが多く回収されています。せっかく緑が多く、水も綺麗な宮城県に住んでいるのですから、その景観やきれいな水源を守り後世に残していきたいと思えます。

《シリーズ》東日本大震災からの教訓 第1回

「平成23年3月11日」この日を皆様はどう思っていますか？過ぎ去ってしまった日の1日と
なってしまったのでしょうか？あれから2年数か月・・・

企業局広報誌「メビウス」では、シリーズ記事としての東日本大震災の記憶の風化を防ぐため、
企業局の当時の対応をメインに多面的な視点から記事を連載していきます。

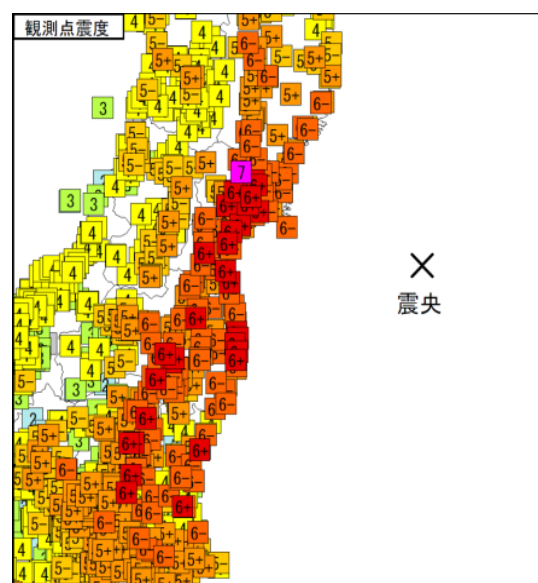
第1回目は、地震の状況・発災当時の状況を振り返ります。

平成23年東北地方太平洋沖地震発生

平成23年3月11日14時46分、宮城県内をマグニチュード9.0、最大震度7の地震が襲いました。当時皆様は何処で何を
していましたか？地震の揺れはどうでしたか？周りの景色は？人は？
どう映りましたか？

私は当時、某ダムの管理事務所にいました。地震の揺れの途中から
停電になり、警報音とともに自家発電機が起動し、直ぐさまダムの
点検を行いました。点検中も余震が継続しており、生きた心地
はまったくしませんでした。自家発電機のお陰で事務所ではテレビ
が見られましたが、津波の映像は現実とは思えず、さながら映画の
特撮の1コマのようにさえ感じました。

一方、企業局の施設では、地震発生直後から停電しましたが、浄
水場機能が停止する様な被害はありませんでした。しかし、送水管路上で漏水が多数発生し、広域水道・
工業用水道のほぼ全域で供給停止となり断水が発生しました。



電気が停まり、水が断たれ、ガス供給も停止
し、下水処理不能、燃料枯渇と生活全てのライ
フラインが停止した数日間のことを忘れずに、
個人で備蓄等出来るものは備えておきましょう。

宮城・岩手・福島で合計1万5千人余が津波
の犠牲になり、7月30日現在まだ3県併せて
2千6百人以上が行方不明のままです。

発災から2年4か月が経ち、広域水道、工業
用水道の復旧工事は終了しましたが、震災前の
状態に戻っただけで、今後は、耐震化等震災に
強いインフラ整備を加速する必要があります。

企業局広報誌「メビウス」では今後、東日本大
震災の復旧状況や検討課題をシリーズでお伝えしていきますが、住民の視点を多く取り入れ、震災の記
憶の風化防止と再度災害時の備えの一助となることを願っています。

企業局のTOPICS

—大槻浄水場環境美化活動—

6月6日、水道週間にあわせ工業用水道管理事務所敷地内外の清掃活動が行われました。職員など合わせて15名が敷地内の周囲を中心に行いました。粗大ごみなどの不法投棄物はなかったものの小さなゴミが多く見付き、45リットルのゴミ袋二つ分のゴミが集まりました。

—出前講座—

6月12日、大崎広域水道事務所が美里町町民生活課からの依頼を受け、美里町消費生活モニター会議の一部としてみやぎ出前講座を実施しました。「水道水が出来るまで」と「水道水の安全・安心を確保するために」の二つのテーマで実施しました。みやぎ出前講座の要項要領は下記のリンクをご参照ください。

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kohou/demae.html>



—再生可能エネルギー—

7月9日に太陽光発電所の起工式が7月19日小水力発電の調印式がそれぞれ行われました。詳細につきましては下記のリンクをご参照ください。

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/suido-kanri/kikoshiki.html> (太陽光発電起工式)

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/suido-kanri/syousuiryoku.html> (小水力発電調印式)

< 編集後記 >

初めに、本誌メビウスをお読みいただきありがとうございました。広報誌を編集する作業というのは初めてなものでうまくいかないことや私が書いた文章で拙い部分も多くあります。読むときは何気なく読んでいた広報誌ですが編集してみて初めて分かる苦勞がたくさんありました。今回は多くの人の助けがあって何とか完成いたしました、まだまだ未熟な

—メビウス—Miyagi Enterprise Bureau Information For“U”Sake

サブタイトルの英語は、「あなたのための宮城県企業局の広報誌」という意味で名づけました。

—アクセル入居者募集—

企業局では、仙台港に賑わいを創出するための活動をビジネス、文化の両面から支援することを目的に、仙台港国際ビジネスサポートセンター（愛称：アクセル）を設置しています。



J R中野栄駅から徒歩18分で、近くには夢メッセや三井アウトレットモールがあります。昨年の12月1日には仙台東部道路の仙台港ICが供用され、さらに便利になりました。現在、オフィススペースで入居者を募集していますので下記にお問い合わせください。

【お問合せ先】企業局公営事業課企画調整班
電話 022-211-3414

編集者ですがこれからも本誌を読んでいただけたら嬉しいです。ご意見等お寄せいただければ幸いです。

【創刊号編集担当・お問い合わせ先】

水道経営管理室広域水道班 伊藤 允紀

電話:022-211-3417

E-mail:kigy@pref.miyagi.jp

【企業局の情報はこちら】

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/16.html>